

編集後記

平成 16 年 6 月 14 日から 7 月 14 日まで、毎週月・水曜日の午後 6 時半から 8 時まで名古屋大学東山キャンパスの文系総合館 7 階カンファレンスホールにおいて、「古典を読み直す」というテーマで国際言語文化研究科主催の公開講座がありました。

「古典」というのは、過去の長い年月にわたって多くの人々に愛好され、模範となってきた秀逸な著述や作品のことです。現在でも愛好されているという点では普遍的な真・善・美を内蔵しており、時空を越えて如何なる時代においても価値を持つという点では現代的な意義を持っていると言ってもよいでしょう。そうした点をかんがみるに、現代的な新しい視点から「古典を読み直す」という作業は、それぞれの学問を単に再構築するだけでなく、新しい自己の発見に繋がって、現代の時代精神と社会風潮が抱える様々な問題の解決策を生み出すこともあります。委員長の松本先生をはじめとする 10 名の有志による公開講座では、以下のような題目で興味深い講義が行なわれ、受講者は新たな知の見地から「古典」を読み返すことによって、そこにどのような世界が開けてくるのかを、一緒に覗くことができたということです。

- 1 シェイクスピアを読み直す (村主幸一)
- 2 リルケを読み直す - リルケと身体性助 (山口庸子)
- 3 ゼルゲイ・エイゼンシュタインを読み直す (P. B. ハーイ)
- 4 今昔物語を読み直す - お肉を食べても浄土に行ける (伊藤信博)
- 5 ファンタジーの古典『指輪物語』を読み直す - 王権と道化について (渡辺美樹)
- 6 「ウィーン古典派」の音楽を読み直す (藤井たぎる)
- 7 形而上詩とニュークリティシズム - モダン、ポストモダンていったい何? (安藤重治)
- 8 政治の原風景 (布施 哲)
- 9 ゲーテの『若きヴェルテルの悩み』を読み直す - 脱肉体化される人妻と嘘の北方伝説 (越智和弘)
- 10 森鷗外の『安部一族』を読み直す - 日本の男の主体とは? (松本伊瑛子)

この公開講座をベースに、「古典を読み直す」ことに関心のある他の教員にも参加いただき、今年も『言語文化研究叢書』第4号を発行することができました。目次を見ても分かるように、14本の論文は古今東西の古典を読み直すことによって言語文化の諸相を照射した力作ぞろいで、読者を大いに啓発してくれるはずです。

『言語文化研究叢書』には、国際言語文化研究科の情報公開の一環として、電子版 <<http://www.lang.nagoya-u.ac.jp/proj/sosho/sosho.html>> がウェブ上にあり、そこでは掲載論文をPDFファイルで読むことができます。それぞれの執筆者には電子メールなどで忌憚のない御意見をお寄せいただければ幸いです。執筆者の一人である藤井先生は編集作業の最後の詰めを手伝ってくださいました。この場を借りて謝意を表します。

2005年3月 名古屋にて 松岡光治